海星堅守足攻「100点超え」

守備の隙突き 好走塁連発

選抜高校野球大会第3日は20日、甲子園球場で2回戦が行われ、前回優勝の大阪桐蔭、広陵（広島）、海星（長崎）が勝って3回戦へ進んだ。【28面に関連記事】

大阪桐蔭はエースの前田が毎回の14三振を奪って完投し、教賀気比（福井）に3―1で競り勝った。広陵は1―0の五回に4安打で3点を奪うなど、二松学舎大付（東京）に5―0で快勝。高尾が8回を5安打に抑えた。

海星は序盤から小刻みに得点し、社（兵庫）に5―1で勝った。

第95回 選抜高校野球 第3日

きのうの成績

海　星　5―1　社
広　陵　5―0　二松学舎大付
大阪桐蔭　3―1　敦賀気比

（記録メモ）▽無失策試合　2回戦の海星、社で記録。今大会初。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
海星（長崎）	1	1	0	0	2	0	0	1	0	5
社（兵庫）	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

▽2回戦（第1試合）

海星は左腕の吉田が7回4安打1失点。制球にやや苦しんだが、大きく曲がる変化球が有効で、相手に的を絞らせなかった。打線は一、二回に、先頭打者の安打に犠打や盗塁などを絡めて得点。1点差に迫られた後の五回は田川の2点三塁打で突き放した。

社は四回に先発からの連打で1点を返すのがやっと。先発の高橋を援護できなかった。

継投1失点 ノーエラー

海星の「スモールベースボール」が甲子園で光った。足でかき回し、継投で1失点にとどめ、無失策。9安打のうち長打は1本でも、先制、中押し、ダメ押しと着実に加点した。「正直なところ100点を超えています。相手の隙を効果的に突いて守り抜けました」と加藤監督も納得顔だ。

一回から〝らしさ〟を発揮した。1番の2年生・田中が内野安打で出塁し、犠打で二進。永田への初球が捕手の前に落ちた瞬間に二進した。この〝ワンバンゴー〟は走る意識と思い切りがなければスタートできない。海星の練習は「9割が守備と走塁」と田中。シートノックでも全員が交代で走者となり、打球を自分で判断して次の塁を狙う練習を積み重ねた。

一回の田中は永田の浅い左飛で迷わず本塁に突入して先制すると、二回には平尾の安打と盗塁で1死二、三塁とし、角野の右前打で2点目。八回1死一、三塁では、井坂のゴロを三塁手が一塁へ送球した瞬間に三塁走者・平尾が「狙っていた」と本塁を陥れた。

ハイライト

「守備と走塁はチームの柱、基本」と平尾。2季連続の初戦突破で、春は8強入りした創部初出場の2016年以来7年ぶりの白星だ。

次は昨秋の公式戦14試合で9本塁打の中国王者広陵と対戦。加藤監督は「踏ん張って踏ん張っての防戦一方になると思う」と予想し、田中は「僅差で守り勝つ野球をやりたい。優勝3度の伝統校に鍛え上げた〝堅守速攻〟でしぶとく食い下がる覚悟だ。（警備雅則）

1回1死三塁、海星・永田の先制左犠飛で生還する三塁・田中（撮影・皇野楽）

海星・田川圭将（五回に2点三塁打）前の回で1点取られた場面。チームの流れを変えないと思って打った

先発吉田粘って7回1失点

海星の先発を務めた左腕吉田は、最速が130キロにも届かない〝緩〟中心の投球ながら7回1失点にまとめた。二回で54球と制球に苦しみ、加藤監督は「粘り強さは評価できますが、見ていて正直動揺しました。こういう吉田を見たことなかったんで」と苦笑い。吉田も「最小失点にしのげて良かった」とホッとした表情だ。

3球で2ストライクに追い込む自分の投球ができなくて、守備のリズムを悪くしてしまったと反省しきりだった。

先発し、7回1失点と好投した海星・吉田（撮影・皇野楽）

社は序盤に逸機

課題」と、3季連続出場がかかる夏に向けた改善点に挙げた。

社・山本監督「相手投手に球数を投げさせることはできたが、好機であと一本がつながらなかった。高橋は本調子でない中で粘り強く投げた」

同・岡主将「チャンスで打ちたかったが、最後に一打が出なかった。詰めの甘さがあった」

同・尾崎三塁手（八回攻撃で高橋が二飛に倒れるなど、序盤の好機に得点できなかったことが響いた。山本監督は「チャンスで一本、というところがつながらず、そこは課題」と、3季連続出場の春の甲子園に挑んだ社は初戦で姿を消した。盗塁や積極的な走塁で海星の攻撃に序盤から失点を重ね後手に回った。8回を投げた先発の高橋は「走塁警戒していた中で、ヒット、盗塁でチャンスを広げられた」と悔しそうだった。

広陵が快勝 真鍋3安打

広陵（広島）　1 0 0 0 3 0 0 1 0
二松学舎大付（東京）　0 0 0 0 0 0 0 0 0

▽2回戦（第2試合）

広陵が12安打し、無失点に終く甲子園通算5試合目、待望の一発は出なかったが、チームが勝つための3連続適時打など4安打3点を奪い、八回に1点を加えた。高尾は8回で被安打5。威力ある速球を軸に打者を押し込み、連打は許さず要所を締めた。

二松学舎大付は一回1死二、三塁など6度、得点圏に走者を進めながら追撃に結びつけられなかった。

一発はお預け 「勝利最優先」

昨秋4本塁打を放った強打で注目される広陵の3番真鍋は、3安打1打点と実力を示した。昨春8回表5安打に抑え、無失点勝利に貢献した広陵の高尾は「緊張はしなかった。いい流れを持ってくる投球を実行できたかな」とはにかんだ。

1―0の二回1死一、三塁では一ゴロ、空振り三振で切り抜けた。五回1死一、二塁では相手主軸の片井に対し「同じ前2年生。絶対に抑えてやる」と、ライバル心を燃やして内角の141キロで見逃し三振に仕留めた。

エース高尾 最速の146キロ

8回無失点

入学1年未満で、強豪の背番号1を背負う実力を示した。直球が走り、8回まで5安打に抑え、無失策と守備にも助けられた。

5回2死三塁、左前に適時打を放つ広陵・真鍋。3安打を記録した

二松学舎大付・市原監督「力の差を感じた。相手投手がすごく良かった。チャンスの場面でギアを上げられて、もう一本が出なかった」

コミクル

エイジェック